The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ゴキブリ駆除について
Author(s)	武衛, 和雄
Citation	makoto. 1975, 11, p. 4-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86222
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ゴキブリ駆除について

大阪府立公衆衛生研究所
主幹　武衛和雄

ゴキブリと人生

ゴキブリがいつごろから日本に定着したのかは分からないが〝御器かぶり〟の転化したものということからすれば、まずは古い。食器に首をつっこみ、〝かぶった〟様子で食物にとりついているところからこのような名前がついたのだろう。

体のわりには薄っぺらで、しかも強力な足と感覚のするどい長い触角をもつ。家庭では台所を中心に、またビルや飲食店、船などいたるところに住みついている。

世界中の嫌われ者で、虫のあわれを歌った古来の詩歌にもこの虫だけは出てこない。雑食性で、糞便や喀痰までなめ、その足で食物や食器などをはいまわるのだから不潔きわまる。赤痢やチフスの流行がおこれば、バイ菌の運び屋になるので、危険この上もない。食中毒の原因になるサルモネラ菌を食ったゴキブリの排泄した糞中で、四年以上も生きていたという報告がある。から恐ろしい。また、蟯虫、蛔虫、鉤虫、鞭虫など十二種の寄生虫卵がゴキブリからみつかっている。糞便を食っている証拠だ。

近年どうしてこんなにゴキブリがふえたのだろうか。一番大きい原因として考えられるのはやはり住生活の改善にあるようだ。寒さに弱い虫だから、住まいの暖房が発達した意義は大きいだろう。

ゴキブリの生活史

屋内に棲むゴキブリにはクロゴキブリ、ヤマトゴキブチ、チャバネゴキブリ、ワモンゴキブリ、トビイロゴキブリがいる。そして普通の民家に多いのは**クロゴキブリ**。体長三センチくらいの大型種で、黒褐色であぶらぎっている。生長は一年ちかくもかかる。幼虫も成虫も台所の流しのすみやひきだしの中、冷蔵庫の下、ガス台のまわりなど比較的暖かい場所に集まっている。

食物をあさる場所は台所の屑物に多く、好んで野菜くずなどにたかる。またトイレや浄化槽、マンホールにも集まる。

卵は棚やひきだしの隅、米びつやビンの中などにうみつける。一個の鞘の中には二〇匹くらいの卵が並び、二〇日ないし六〇日で孵化する。大阪では五月から九月までが発育の季節、残りの季節は停止期。

ビルの食堂や飲食店、船舶などに多いのが**チャバネゴキブリ**一センチくらいで淡黄褐色、胸背に二本の黒条があるのが特長。世代が短かく、およそ三カ月で親になる。食堂や調理場に多く、暖かい場所に群がって潜んでいる。このゴキブリはおしりに卵を抱えているが、産み落されるとすぐ孵える。冬でも暖かい場所にいるから、一年中繁殖をくりかえしている。

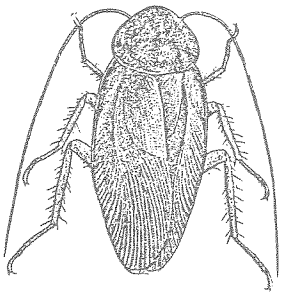

図1.　クロゴキブリ

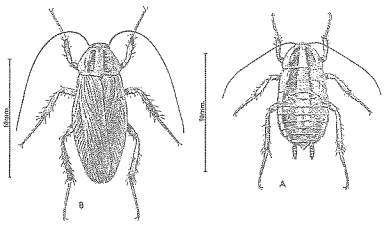

図2.　チャバネゴキブリ
A：幼虫　B：成虫

ゴキブリ退治

ハエや蚊とちがうことは、もっぱら歩きまわる虫で、発生源というようなものがない。潜み場所があって、昼間はかくれていて夜に活動する。親も子も群棲する習性があるが、これは彼らの直腸から糞とともに排出されるフェロモンという物質にひかれるからだ。こんな習性をうまく駆除に利用することである。

残留処理　これがいちばんいい。ゴキブリの出入りする場所や通路に有機リン剤（フェニトロチオン、ダイアジノン、バイテックス、サイノックなど）を局所重点的に塗布したり噴霧しておく。調理台、ガス台、流し、戸棚や引出しの内側、柱の角などに、床から一メートルくらいの高さまで処理すればよい。残効性は一カ月以上つづく。

直接噴霧　かくれ家をねらいうちする方法。エアゾール製剤が市販されている。主剤はピレスロイド（テトラメスリン、レスメトリン）またはＤＤＶＰのような速効性のものがよい。どこに多く潜んでいるかをよく確かめた上で行なうこと。

風呂場やベランダの物かげ（ガラクタの中、植木ばちなど）にも出没するから忘れずに。

毒餌法　やや消極的だが、殺虫剤をまけないところではこの方法をとる。

市販品はゴキブリの好む餌に、ディプテレックス、フェニトロチオンなどを配合してある。効果は喫食性の大小に左右されるから、よい製品を選んで配置場所をよく考えてやること。

―終―